

ちばけん 障害者社会参加推進センターだより

発行・編集 千葉県障害者社会参加推進センター

第22号

〒260-0026 千葉市中央区千葉港 4-3 千葉県身体障害者福祉協会内
TEL 043-245-1571・FAX 043-245-1578 E-mail: bcg03245@nifty.com
<http://chibashinshoukyou.style.coocan.jp/>



新型コロナウイルス感染症のさらなる感染拡大防止のために

人との接触を8割減らす、10のポイント

参考資料1

緊急事態宣言の中、誰もが感染するリスク、誰でも感染させるリスクがあります。
新型コロナウイルス感染症から、あなたと身近な人の命を守るよう、日常生活を見直してみましよう。

<p>1 ビデオ通話で オンライン帰省</p> 	<p>2 スーパーは1人 または少人数で すいている時間に</p> 	<p>3 ジョギングは 少人数で 公園はすいた時間、 場所を選ぶ</p> 
<p>4 待てる買い物は 通販で</p> 	<p>5 飲み会は オンラインで</p> 	<p>6 診療は遠隔診療 定期受診は曜日を調整</p> 
<p>7 筋トレやヨガは 自宅で動画を活用</p> 	<p>8 飲食は 持ち帰り、 宅配も</p> 	<p>9 仕事は在宅勤務 通勤は医療・インフラ・ 物販など社会機能維持 のために</p> 
<p>10 会話は マスクをつけて</p> 	<p>3つの密を 避けましよう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 換気の悪い密閉空間 2. 多数が集まる密集場所 3. 間近で会話や発声をする密接場面 	

[出典：千葉県ホームページ]

いのちと社会を守る”新しい生活様式”

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、皆さまには大変なご協力をいただきありがとうございます。また、最前線で昼夜問わず働いている医療関係者の皆さま、県民の生活を支えるお仕事を続けてくださっている皆さまをはじめ、すべての方のご尽力に、改めて、心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症への対応は、長丁場になるといわれています。これから私たちは、日常生活と感染拡大防止対策を両立していかなければなりません。そのためには、家庭や職場、学校などあらゆる場面で「新しい生活様式」を取り入れ、日常の一部としていく必要があります。なお、障害や疾患などによりマスク着用や人と人との距離を確保することが難しい方もいます。お互いを理解し、みんなで協力して「新しい生活様式」に取り組みましょう。

(1) 人と人との距離を確保しましょう

- 人との間隔を空ける
- 混雑する時間帯や場所を避ける

(2) 咳エチケット、マスクの着用をしましょう

- 会話をするときはマスク
- 真正面を避ける

※十分な感染症予防を行いながら、熱中症予防にもこれまで以上に心掛けるようにしましょう。

(3) 手洗いでウイルスを洗い流そう

- 帰ったら手や顔を洗う、シャワーを浴びる
- こまめに、水と石鹸で丁寧に手洗い

(4) 誰だって感染しうるから、差別やいじめをなくそう

新型コロナウイルス感染症に関連して、誤った知識や不確かな情報により、感染された方や治療にあたる医療機関および、医師や看護師等の皆さまが不当な差別や偏見、いじめ等の風評被害に苦しんでいます。

新型コロナウイルスは誰もが感染する可能性があり、そして、誰もが気づかないうちに感染を広げてしまう可能性がある感染症です。

不幸にも感染された方や感染リスクと背中あわせで頑張ってくれている医療関係者等の皆さまやご家族へ、いわれのない差別や偏見等が行われないう、冷静な行動をお願いします。



社会福祉法人千葉県視覚障害者福祉協会です！ ～スポーツ体験「タンデム自転車体験会」を行いました～

千葉県視覚障害者福祉協会が社会福祉法人に移行し、社会福祉法人愛光が「視覚障害者総合支援センターちば」で行ってきた事業の移管を受けて3年が経ちました。引き続き情報提供施設(点字図書館、点字出版)、IT支援、生活支援、用具販売、同行援護事業所のぞみ、「相談支援事業所アイサポート」、「就労支援B型事業所ワークショップ四街道」、千葉県からの受託事業や会員活動推進委員が中心となっていく広報活動、福祉大会開催事業等を行っております。

さて、当協会では平成30年4月より千葉県でも公道をタンデム自転車での走行ができるようになったことを踏まえ、ちばぎんハートフル福祉基金に助成をいただきタンデム自転車5台を購入しました。以降、年に1回ではありますが、タンデム自転車の体験会を行っています。

昨年は、前半が、千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンター体育館での慣らし運転。うん十年ぶりに自転車に乗る方や、自転車屋の娘だったという方、このために練習してきたガイドさんやボランティアの方など、前に乗るパイロットの方々もやや緊張気味。二人の息が合わないとバランスが崩れたり、スピードの感覚も早すぎたりでキャーキャー言いながらも、何度もチャレンジしていました。

後半は、近くの千葉県スポーツセンターに移動して敷地内のイチヨウ並木の下や野球場、テニスコートまでの大回りの外周を気持ちよくタンデムで駆け抜けました。やっぱり外の空気はおいしい。最初はこわごわだった方もだんだんとペダルをこぐ足に力が出てきてスピードも上がり、風を切って満面の笑みで通り過ぎていきます。自転車に生まれて初めて乗ったという方も、見えなくなってから久しぶりに乗ったという方も、大いに楽しんだひとときになりました。

新型コロナに阻まれ、これまでのような様式でのスポーツ体験が難しくなってきましたが、感染防止に配慮しながら今年もタンデム体験会を計画しております。見えない見えにくい方、奮ってご参加ください。

詳細は協会事務局 電話 043-421-5199まで。



精神障害者も心身障害者医療費助成の対象となりました！

～昨年の主な活動内容～

NPO 法人千葉県精神障害者家族会連合会

理事長 貫井 信夫

当会は、千葉県内の38家族会、会員数1200名からなっております。併せて、上部団体である全国精神保健福祉会連合会（通称・みんなねっと）に所属し、様々な活動を行っております。

当会の昨年度の主な活動について、お話しします。

第一は、千葉県の重度心身障害者医療費助成制度に、精神障害者も対象とすることが決まったことです。身体、知的障害者は既にこの制度の対象になっていましたが、精神障害者だけが適用されず、関係者は残念な気持ちで一杯でした。当会としても、全国組織と一緒に、この制度改善のため、請願署名や千葉県、千葉県議会など、さまざまな働きかけを行った結果、関係者のご協力により、実現したものです。

第二は、千葉県の委託事業として行っている、‘障害者週間の集い’の行事で、呉秀三100周年記念映画‘夜明け前’を上映したことです。

1918（大正7年）、東京大学医学部精神科の教授だった呉は、全国の精神病患者がどのように扱われているかを調査した報告書「精神病者私宅監置の実況及び其統計的観察」をまとめました。当時、多くの精神障害者は自宅の座敷牢に幽閉されており、呉はそうした状況の改善のため、奔走しました。

それから100年を経た現代でも、精神病に対する誤解や偏見、差別に起因する監禁事件などが起こっていますが、現代の精神障害者の問題には、どのようなものがあるか、このドキュメンタリー映画を通して、参加家族・当事者・一般の方たちが映画上映後意見交換を行いました。

呉が書き残した、「わが国十何万の精神病者は実にこの病を受けたるの不幸の外に、この国に生まれたるの不幸を重ねるものというべし」には、今でも通じるものがあると考えております。

私ども家族会は、「障害のある人もない人も共に地域で安心して暮らせる社会の実現」を目指して、今後も活動を続けていきたいと思っております。

・ ・ 千葉駅前での医療費助成の署名 ・ ・

